



大沼 瑞穂氏

予算化要望の県民運動を起こすことが重要。
「世界の中の山形」をスローガンにしたい

大沼 農業、観光、ものづくりの地場産業を支えていくことが山形県のこれからの発展につながる。そのために高速交通網が必要だ。道路のインフラ整備は20〜30年かかる。県内各地域が付加価値を高め、予算化要望の県民運動を起こすことが重要だ。その際は「世界の中の山形」をスローガンにしたい。東北は東日本大震災以降、デスティネーションキャンペーンなどの努力もあって観光客は戻ってきているが、まだ震災前の数字を下回っている。山形には農業、観光、ものづくりなど、そこでは味わえない、生産することができるものがある。県民運動を起こすと同時に、自ら外に出て行って県外の人を連れてくる意識を持つことが大事だ。

大沼 高速交通網の整備を進めるためには、宮城をはじめ、新潟、秋田と日ごろから連携を図る必要がある。特に

フル規格の新幹線については、隣県を巻き込む覚悟で取り組んでいかなければならない。米カリフォルニアの鉄道博物館を訪れた際に驚いたのは、山形新幹線の扱い。在来線と同じで、新幹線として認識されていなかった。山形新幹線のフル規格化を私たちの

目標として掲げたい。また、農業では飼料用米工場の多くが太平洋側にある。牛肉の輸出用の工場も岩手だ。日本海側の交通網がしっかりしていないからだ。高速交通網を整備し、太平洋側の代替ではなく、日本海側が主役になるように力を入れていくべきだ。